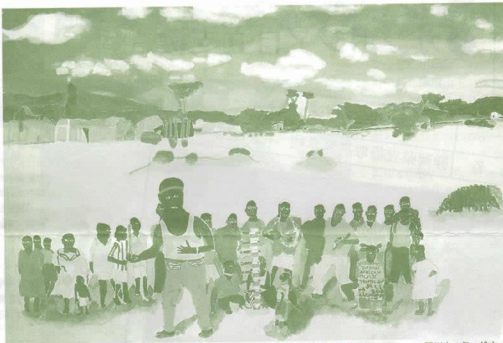




## カクマ難民キャンプ でのワークキャンプ 参加者募集!

募集要項  
日時：9月6日7月27日～9月2日  
募集人数：6名  
費用：2.5万円  
条件：19才から30才の健康な青年  
片言でも英語が話せると  
病院建設の募金活動に協力する  
用意のある人  
内容：病院建設のワーク  
キャンプ活動の研修  
締切：1996年6月11日  
応募方法：  
参加費を原簿用紙4、5枚に  
まともな郵便番号とともに郵送  
すること  
選考：1996年6月18日  
午後7時に面接して選考



歓迎の踊るスーダンの若者

豊川中1年 綾木 洋

## カクマ難民キャンプ近況報告

ザカ・クワウオガイ (キャンプマネジャー)

LWFはカクマ難民キャンプの運営の責任を中心的に担うNGOです。キャンプはケニアのツルカナ郡にあり、土地が半砂漠のため、難民が農業を行うことができません。現地のLWFの管理運営は、現在この側面で行われています。

第一は、緊急援助で、主に南スーダンから毎週連れてやってくる婦人、老人、障害者、子供の難民を対象とするものです。現在の人口はUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の食料配給の人数によると45,000人です。1994年12月の人口調査では、28,500人でしたから、この間に35%も増加したことになります。過去3年間にスーダンのほかウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、エチオピア、ザイル、ソマリアの7ヶ国の難民が住むキャンプとなりました。ケニア政府が他のキャンプを閉鎖して、カクマに集中させる政策を取っているため、ケニヤで一番大きな難民キャンプになりました。

第二は、1992年のキャンプ開設以来、連れてやってきた難民を日常的に世話し彼等の生活を維持するためのさまざまなキャンプのプロジェクトです。難民は15日おきに、一人当たり、小麦粉200グラム、とうもろこしの粉250グラム、豆50グラム、食料油25グラム、塩5グラムが配給されます。食料はUNHCRを通して、世界食料プログラム(World Food Program)により支給され、LWFがキャンプないでの配給の責任を持っています。そのほかLWFは、保健、医療、必要物の調達と運送、公衆衛生(トイレ)、住所および学校建設を中心とする建築関係など、社会奉仕プログラム、女性コミ

ュニティー開発、それに水の供給などの分野の活動を行っています。

しかしながら、これらの奉仕活動はUNHCRとLWFの予算が不十分なため十分とは言えません。UNHCRの1995年度の予算は、1994年度比30%も削減されました。いっぽう難民の数は、1995年度中に35%も増加したのです。1996年度の予算①はさらに15%削減されました。

もしLWFがカクマ難民キャンプを維持管理し、難民への支援を続けようとするなら、とくに保健と医療サービス、社会奉仕プログラムと女性コミュニティ開発の責任をLWFが担わなくてはなりません。なぜならこれらの分野に対するUNHCRの財政的貢献は減少するものの、難民の増加によりそれらの奉仕への要請が増してくるためです。そこで96年この分野の予算が100%達成されるように最善の努力が必要でした。

カクマの難民に必要なそのほかのものは、食料、野菜や砂糖です。食料以外では、毛布、石鹸、台所用品、女性と子どもの古着は、とくに南スーダンから連れてきた難民には切実な必要です。

①1996年度UNHCRのカクマ難民キャンプの予算は、1.80万ドルです。LWFのカクマ難民キャンプの予算は、110万ドルでしたが、1月のナイロビ会議で予算が40万ドルまで縮小されました。



カクマ難民キャンプにて

左端、マークさん  
右から2人目、ユアンさん  
(中印人でUNHCRの責任者)  
3人目、ザカさん

## LWSコンパチンチュン省農村開発プロジェクト

# 村の銀行

## 民主的に運営される小規模金融

「村の銀行」プロジェクトはLWSが地域の村人に協力して実施している活動の一つです。この計画は貧しい村人たちに良心的な金融を受ける機会を与えて生活の向上、現金収入の道を開くものです。また同時に貯蓄性向を育てることもねらっています。

もちろん在来の金融の機会はあるのですが、村の金貸しは、現金の場合には月に10ないし20%、現物の場合には月利25%もの利息をとっていることが判明しました。

このプロジェクトのガイドラインの主な項目は下のようにまとめられます。月の利息の5%というのは日本の水準から考えるとたいへん高いですが、在来の金融の利率よりはるかに低いです。またその5%の利息のうちの4%はメンバーの合意があれば銀行の資本に加えることも(それによって銀行の融資能力を上げることができる)、メンバーに配分すること(実質の利下げ)もできるようにしていますので、搾取的である、ということにはならないと考えています。



アンチンスナイ村の銀行のメンバーのかたがた

## 村の銀行の原則

- 5ないし9人のメンバーからスタート
- 3名の運営委員の選出
- 運営の規約の制定
- 毎週200ないし500リエルの積み立て義務
- それぞれの「村の銀行」メンバーは最大50名まで
- 一人当たり\$30までの範囲での種銭の設定
- 月利5%
- (そのうち1%は運営委員の手当、残り4%は総会で使途を決定)
- 融資期間は最長6か月まで
- 融資実行前に8ないし12週の間積み立て
- 融資規模は\$30プラス個人の積立額を限度とする
- 再融資も6か月サイクルで必要ときに実施される
- 種銭はそれぞれの「村の銀行」に留保される

実施に際しては村落のうち特に未亡人の多いところが対象地域となります。選ばれ、関心のある村人が組織化され、すでに11行、400家族がかかわる銀行が村人の手によって運営されています。なお、メンバーのうち77%は女性です。

アンチン・スナイ村の銀行のメンバーはもっとも初期の融資を受けた人々です。ガイドラインに従ってそれぞれは計画書を提出し、スタッフは事前にそれが十分利益を生むかどうかを確認しました。同村のメンバーのうち、女性

は39名、男性は2名でした。多くの場合は、いまだにすでに副業としてやっていた仕事に対して融資する結果になっていますが、そのなかから経験の蓄積をはかって、将来はどのような仕事か利益が大いかなどについての助言、また技術指導などの分野にも発展していく見通しです。仕事の種類には、お菓子、クマール麵を売る、中古衣料品や米、魚などを仕入れてきて小売する、伝統的な薬草の販売、お粥の販売、などさまざまな種類があります。



市場でお菓子を売る村の銀行メンバーの家